

## プログラム

第1日目：2018年11月17日(土)

標本展示	8:30 ~ 17:00	第三実習室
開会の辞	10:55 ~ 11:00	第一講義室
一般演題Ⅰ（演題1~3）	11:00 ~ 11:45	
ランチョンセミナー1	12:00 ~ 13:00	
一般演題Ⅱ（演題4~15）	13:20 ~ 16:45	
特別講演	17:00 ~ 18:00	
懇親会	18:30 ~ 20:30	「風花-KAMOGAWA-」

10:55~11:00 開会の辞

京都府立医科大学大学院医学研究科 分子病態病理学 伊東 恭子

一般演題Ⅰ（口演）

11:00~11:45 変性1（TDP-43）

座長 中村 正孝先生（関西医科大学 神経内科学講座）

\*1. ALS dementia 症例の辺縁系における TDP-43 の局在

○棚橋貴夫(タハシ タカ)、隅寿恵、白旗恵美、西池氏暉、小川拓也、宮下典子、衛藤昌樹、中隆

市立東大阪医療センター 神経内科

\*2. 急速な経過をたどり、前角細胞に多数の skein-like inclusion を認めた上位ニューロン優位型 ALS の1剖検例

○新宅雅幸(ニタケ マサキ)<sup>1</sup>、矢端博行<sup>2</sup>、田中えり<sup>3</sup>、塩原正規<sup>3</sup>、九嶋亮治<sup>3</sup>

1) 滋賀県立総合病院 病理診断科

2) 滋賀医科大学 脳神経内科

3) 滋賀医科大学 病理診断科

3. ALS の診断2週間後に急死した89歳男性例

○倉重毅志(クラシゲ タシ)<sup>1</sup>、谷山大樹<sup>2</sup>、杉浦智仁<sup>1</sup>、倉岡和矢<sup>2</sup>、鳥居剛<sup>1</sup>

1) 国立病院機構呉医療センター・中国がんセンター 神経内科

2) 同 病理診断科

12:00~13:00 ランチョンセミナー1

座長 伏木 信次 先生（京都府立医科大学 研究開発・質管理統合研究センター）

「概日リズムと生涯健康医学」

京都府立医科大学大学院医学研究科 統合生理学 八木田 和弘 先生

## 一般演題Ⅱ（口演）

### 13：20～13：50 変性2（シヌクレイン）

座長 藤村 晴俊 先生（国立病院機構 刀根山病院 神経内科）

4. 著明な起立性低血圧で発症し、緩徐経過をたどった DLB の 1 例  
○加子哲治(カコ テツハル)<sup>1</sup>、野倉一也<sup>1</sup>、蔵地万里奈<sup>1</sup>、岩崎 靖<sup>2</sup>、吉田眞理<sup>2</sup>
  - 1) 藤田医科大学ばんだね病院 神経内科
  - 2) 愛知医科大学 加齢医科学研究所
5. 発症早期より妄想や幻視が目立ち、limbic type の Lewy 小体病理であった認知症を伴う Parkinson 病の 1 剖検例  
○坂井健二(サカイ ケンジ)<sup>1</sup>、池田篤平<sup>2</sup>、石田千穂<sup>2</sup>、駒井清暢<sup>2</sup>、山田正仁<sup>1</sup>
  - 1) 金沢大学大学院 脳老化・神経病態学（神経内科学）
  - 2) 独立行政法人国立病院機構医王病院 神経内科

### 13：50～14：35 変性3（シヌクレイン）

座長 岩崎 靖 先生（愛知医科大学 加齢医科学研究所）

6. 発症から約 6 年後に症状が急速に進行し、入浴中に溺死した PDD の 1 例  
○両角佐織(トウカク サヅキ)<sup>1</sup>、安井敬三<sup>1</sup>、池田知雅<sup>2</sup>、吉田眞理<sup>2</sup>
  - 1) 名古屋第二赤十字病院 脳神経内科
  - 2) 愛知医科大学 加齢医科学研究所
7. 診察を拒否し続けた百歳老人の 1 剖検例  
○岩瀬 環(イワセ タマキ)<sup>1</sup>、吉田眞理<sup>2</sup>、橋詰良夫<sup>3</sup>
  - 1) 名古屋市厚生院 神経内科
  - 2) 愛知医科大学 加齢医科学研究所
  - 3) 福祉村病院 神経病理研究所
8. パーキンソン病の正診率 - 日本病理剖検輯報に基づく検討  
○堀本佳彦(ホリモト ヨシヒコ)<sup>1</sup>、稲垣亜紀<sup>1</sup>、田島稔久<sup>1</sup>、日比野敬明<sup>1</sup>、蒲澤秀洋<sup>1</sup>、稲垣宏<sup>2</sup>
  - 1) 名古屋市総合リハビリテーションセンター 神経内科
  - 2) 名古屋市立大 臨床病態病理学

### 14：35～15：05 変性4（タウ）

座長 隅 寿恵 先生（市立東大阪医療センター 神経内科）

9. 発症前 PSP と考えられる所見を認めた高齢者剖検例  
○西田尚樹(ニシダ ナツキ)<sup>1</sup>、畑 由紀子<sup>1</sup>、吉田幸司<sup>2,3</sup>
  - 1) 富山大学大学院医学薬学研究部 法医学講座

- 2) 兵庫県立姫路循環器センター
  - 3) 富山大学附属病院 神経内科
10. すくみ足で発症し MRI で Swiss cheese striatum を呈した進行性核上性麻痺の一例
- 池田知雅(イケダ トシマサ)<sup>1,2</sup>、山田健太郎<sup>3</sup>、赤木明生<sup>1</sup>、三室マヤ<sup>1</sup>、宮原弘明<sup>1</sup>、岩崎靖<sup>1</sup>、松川則之<sup>2</sup>、吉田眞理<sup>1</sup>
- 1) 愛知医科大学 加齢医科学研究所
  - 2) 名古屋市立大学大学院 神経内科
  - 3) 名古屋市立東部医療センター 神経内科

—Coffee Break(25min)—

### 15 : 30~16 : 15 変性 5 (タウ)

座長 吉田 眞理 先生 (愛知医科大学 加齢医科学研究所)

11. 視床・基底核・中脳などに強い病変を示すタウオパチーの 1 剖検例
- 西村広健(ニシムラヒロタケ)<sup>1</sup>、小西吉裕<sup>2</sup>、森谷卓也<sup>1</sup>
- 1) 川崎医科大学 病理学
  - 2) 鳥取医療センター 臨床研究部
- \*12. 臨床的に CBS と診断され、AD 病理を主所見とした tauopathy の一剖検例
- 高橋 央(タカハシ ヒロユキ)<sup>1,2</sup>、松尾宏俊<sup>3</sup>、丹藤 創<sup>1</sup>、藤井ちひろ<sup>2,3</sup>、細川洋平<sup>4</sup>、伊東恭子<sup>1</sup>
- 1) 京都府立医科大学大学院医学研究科 分子病態病理学
  - 2) 同 脳神経内科
  - 3) 近江八幡市立総合医療センター 脳神経内科
  - 4) 同 病理診断科
- \*13. 癱性対麻痺を呈した新規 presenilin-1 遺伝子変異による家族性アルツハイマー病の剖検例
- 大井由貴(オオイ ユキ)<sup>1,2</sup>、井谷理彦<sup>1</sup>、長谷川華子<sup>1</sup>、眞木崇州<sup>1</sup>、葛谷 聡<sup>1</sup>、山下博史<sup>1,3</sup>、綾木 孝<sup>1</sup>、山内 浩<sup>4</sup>、丹羽 篤<sup>5</sup>、高屋成利<sup>6</sup>、岡田知久<sup>6</sup>、李方舟<sup>1</sup>、酒巻春日<sup>1</sup>、澤本伸克<sup>7</sup>、松本理器<sup>1</sup>、池田昭夫<sup>1</sup>、富本秀和<sup>5</sup>、高橋良輔<sup>1</sup>
- 1) 京都大学医学部附属病院 神経内科
  - 2) 音羽病院 神経内科
  - 3) 日本赤十字社和歌山医療センター 神経内科
  - 4) 滋賀県立成人病センター研究所
  - 5) 三重大学医学部附属病院 神経内科
  - 6) 京都大学医学研究科附属脳機能総合研究センター

7) 京都大学人間健康科学 近未来型人間健康科学融合ユニット

16:15~16:45 変性6 (シヌクレイン)

座長 綾木 孝 先生 (京都大学 脳神経内科)

14. Wearing-off 現象を認めた多系統萎縮症の1剖検例

○石田千穂(イダチホ)<sup>1</sup>、駒井清暢<sup>1</sup>、沖野惣一<sup>2</sup>、山田正仁<sup>3</sup>

1) 国立病院機構医王病院 神経内科

2) おきの内科医院

3) 金沢大学大学院 脳老化・神経病態学 (神経内科学)

15. 前頭葉, 側頭葉に著明な萎縮を認めた経過18年の多系統萎縮症

○大羽知里(オホハチリ)<sup>1</sup>、榎原聡子<sup>2</sup>、安藤孝志<sup>3</sup>、安井敬三<sup>1</sup>、吉田眞理<sup>3</sup>

1) 名古屋第二赤十字病院 脳神経内科

2) 東名古屋病院 脳神経内科

3) 愛知医科大学 加齢医科学研究所

17:00~18:00 特別講演

座長 伊東 恭子 (京都府立医科大学大学院医学研究科 分子病態病理学)

「筋萎縮性側索硬化症; TDP-43 の発見までとその後」

新潟大学理事/副学長(前 新潟大学脳研究所 病態神経学部門 病理学) 高橋 均先生

18:30~20:30 全体懇親会

会場: 京都東急ホテルレストラン「風花-KAMOGAWA-」

場所: 京都府立医科大学附属病院、外来棟4階

第2日目：2018年11月18日（日）

標本展示	8:30 ~ 16:30	第三実習室
一般演題Ⅲ（演題16~18）	10:00 ~ 10:45	第一講義室
臨床神経病理懇話会 世話人会	11:00 ~ 11:30	第三会議室
日本神経病理学会近畿地方会世話人会	11:30 ~ 12:00	
ランチョンセミナー2	12:10 ~ 13:10	第一講義室
一般演題Ⅳ（演題19~30）	13:15 ~ 16:30	
閉会の辞	16:30 ~ 16:35	

一般演題Ⅲ（口演）

10:00~10:45 変性7（TDP-43）

座長 加藤 信介 先生（鳥取大学医学部 脳病態医科学分野）

16. 側坐核に高度な TDP-43 病理を認めた筋萎縮性側索硬化症の 1 例  
 ○和泉唯信(イズミ ユイシ)<sup>1</sup>、○松原知康(マツハラ トモヤス)<sup>2</sup>、瓦井俊孝<sup>1</sup>、野寺裕之<sup>1</sup>、村山繁雄<sup>2</sup>、梶 龍兒<sup>1</sup>  
 1) 徳島大学病院 神経内科  
 2) 東京都健康長寿医療センター 神経病理
17. 多巣性運動ニューロパチーと臨床診断され、剖検で ALS と診断した高齢女性  
 ○植松高史(ウエマツ タカシ)<sup>1</sup>、両角佐織<sup>1</sup>、安井敬三<sup>1</sup>、加藤隼康<sup>2</sup>、吉田眞理<sup>3</sup>  
 1) 名古屋第二赤十字病院 神経内科  
 2) 名古屋大学 神経内科  
 3) 愛知医科大学 加齢医科学研究所
- \*18. 在宅看取りから病理解剖を実施した筋萎縮性側索硬化症の 1 例  
 ○松尾宏俊(マツオ コウシュン)<sup>1</sup>、細川洋平<sup>2</sup>、久我正文<sup>3</sup>、小林勇吾<sup>4</sup>、安藤功一<sup>4</sup>、長谷川浩史<sup>4</sup>、高橋 央<sup>5</sup>、丹藤 創<sup>5</sup>、伊東恭子<sup>5</sup>  
 1) 近江八幡市立総合医療センター 神経内科  
 2) 同 病理診断科  
 3) 近江八幡市蒲生郡医師会(久我内科医院)  
 4) 滋賀県立総合病院 神経内科  
 5) 京都府立医科大学大学院医学研究科 分子病態病理学

11:00 ~ 11:30 臨床神経病理懇話会 世話人会（第三会議室）

11:30 ~ 12:00 日本神経病理学会近畿地方会世話人会（第三会議室）

12:10~13:10 ランチョンセミナー2

座長：水野 敏樹 先生（京都府立医科大学大学院医学研究科 神経内科学）

「パーキンソン病の動物モデル update」

京都大学大学院医学研究科 脳病態生理学講座 臨床神経学 高橋 良輔 先生

一般演題IV（口演）

13:15~14:00 変性8（TDP-43, FUS）

座長 和泉 唯信 先生（徳島大学病院 神経内科）

19. 認知機能障害で発症し、言語障害、パーキンソニズムを呈した FTLN-TDP type A の1例

○岩崎 靖(イサキ ヤス)1、森 恵子2、伊藤益美2、川合圭成1、赤木明生1、三室マヤ1、宮原弘明1、吉田真理1

1) 愛知医科大学 加齢医科学研究所 神経病理部門

2) 小山田記念温泉病院 神経内科

\*20. 長期の経過で著明な大脳萎縮を伴った FTLN-TDP の一剖検例

○丹藤 創(タノウ シウ)1、高橋 央1、水原 亮2、木村正志2、結城奈津子2、吉岡 亮2,3、伊東恭子1

1) 京都府立医科大学大学院医学研究科 分子病態病理学

2) NHO 舞鶴医療センター 神経内科

3) NHO 舞鶴医療センター 臨床研究部

\*21. 上位運動ニューロン症状で発症した神経細胞性中間径フィラメント封入体病 (NIFID) の一剖検例

○村上 綾(ムラカミ アヤ)、中村正孝、隠岐光彬、中村芳美、金子 鋭、日下博文  
関西医科大学附属病院 脳神経内科

14:00~14:30 炎症・免疫1（サルコイドーシス）

座長 丹藤 創 先生（京都府立医科大学大学院医学研究科 分子病態病理学）

22. 神経サルコイドーシスによる中枢神経血管炎と考えた78歳男性例

○佐藤亮太(サトウ リョウタ)1、松尾欣也1,2、尾本雅俊1、神田 隆1

1) 山口大学大学院医学系研究科 神経内科学

2) 山口県立総合医療センター 神経内科

\*23. 遠位型筋ジストロフィーとの鑑別を要し、筋病理で慢性ミオパチー型サルコイド筋炎と診断した一例

○上田哲大(ウエダ テツヒロ)、辻有希子、安池博美、滋賀健介、水野敏樹  
京都府立医科大学大学院医学研究科 神経内科学

14 : 30～15 : 00 感染症 (JCV)

座長 西村 広健 先生 (川崎医科大学 病理学)

\*24. 自己免疫性溶血性貧血の治療中に進行性多巣性白質脳症(PML)を発症した 1 剖検例

○渡邊侑奈(ワタベ ユナ)<sup>1</sup>、桂 奏<sup>1</sup>、宍戸-原 由紀子<sup>2</sup>、伊東恭子<sup>3</sup>

- 1) 京都第二赤十字病院 病理診断科
- 2) 東京医科大学 人体病理学分野
- 3) 京都府立医科大学大学院医学研究科 分子病態病理学

25. 画像・病理・遺伝子解析で悪性リンパ腫が疑われた、高度炎症細胞浸潤を伴う予後良好な進行性多巣性白質脳症(PML)

○宍戸-原由紀子(シト`ハラ ユキコ)<sup>1</sup>、大原万里恵<sup>1</sup>、松林 純<sup>1</sup>、中道一生<sup>4</sup>、中村直哉<sup>5</sup>、相澤仁志<sup>2</sup>、秋元治朗<sup>3</sup>、長尾俊孝<sup>1</sup>

- 1) 東京医科大学 人体病理学
- 2) 同 脳神経内
- 3) 同 脳神経外科
- 4) 国立感染症研究所 ウイルス第一部第三室
- 5) 東海大学医学部基盤診療学系 病理診断学

—Coffee Break (15min)—

15 : 15～16 : 00 炎症・免疫 2

座長 上野 正樹 先生 (香川大学医学部 炎症病理学)

26. 脳腫瘍が疑われ摘出されたが、病理学的に Grocott 染色陽性構造物や多核巨細胞を伴う壊死性肉芽腫を認めた一例

○松原慶太郎(マツバラ ケイトウ)<sup>1</sup>、島 綾乃<sup>1</sup>、坂井健二<sup>1</sup>、岩佐和夫<sup>1</sup>、山田正仁<sup>1</sup>、木下雅史<sup>2</sup>、中田光俊<sup>2</sup>

- 1) 金沢大学 脳老化・神経病態学 (神経内科学)
- 2) 金沢大学 脳神経外科

\*27. 脳生検後に臨床診断した抗 GABA<sub>A</sub> 受容体抗体陽性脳炎の 1 例

○吉田幸司(ヨシタ コウジ)<sup>1,2</sup>、寺澤英夫<sup>1</sup>、清水洋孝<sup>1</sup>、上原敏志<sup>1</sup>、喜多也寸志<sup>1</sup>

- 1) 兵庫県立姫路循環器病センター 神経内科
- 2) 富山大学附属病院 神経内科

28. 肺癌治療後、小脳失調を示した 73 歳・男性

○橋詰良夫(ハシヅメ リョウオ)、赤津裕康、兼坂岳志、小川倫弘、菱田知恵  
福祉村病院 神経病理研究所



16:00~16:30 プリオン・過誤腫

座長 東 靖人 先生 (医療法人公仁会 姫路中央病院 神経内科)

29. 病理学的に MM1+MM2-皮質型と診断したクロイツフェルト・ヤコブ病の 1 例  
○加藤博子(カトウ ヒロコ)<sup>1</sup>、岩崎 靖<sup>2</sup>、安藤哲朗<sup>1</sup>、赤木明生<sup>2</sup>、三室マヤ<sup>2</sup>、宮原弘明<sup>2</sup>、吉田眞理<sup>2</sup>

1) 安城更生病院 神経内科

2) 愛知医科大学 加齢医科学研究所 神経病理部門

\*30. 頭頂部脳瘤における Radial Glia 遺残を有する過誤腫様脱出脳組織の Sox-2 免疫組織化学的検索結果の追加報告

○岡部英俊(オカベ ヒデアキ)<sup>1,2</sup>、伊倉義弘<sup>2</sup>、岩井康博<sup>2</sup>、原田敦子<sup>3</sup>、宇都宮秀綱<sup>3</sup>

1) 西洞院仏光寺クリニック 病理診断科

2) 愛仁会高槻病院 病理診断科

3) 同 小児脳神経センター

16:30~16:35 閉会の辞

京都府立医科大学大学院医学研究科 分子病態病理学 伊東 恭子

注:

\*第 18 回日本神経病理学会近畿地方会の演題を兼ねる。